総合医学会報告

2023年シンポジウム：地域における国立病院附属看護学校の役割と意義，今後の展望

鹿児島医療センターにおける附属看護学校の閉校と大学誘致後の課題について

深 野 久 美†

第77回国立病院総合医学会
2023年10月21日　於　広島

IRYO　Vol. 78　No. 6（398－401）2024

要 旨　【背景と経緯】近年，大学・専門学校を含む看護師等学校養成所の入学生は少子化などの影響で年々減少傾向にある．その中において「大学」は増加しているが，それまで主流であった「３年課程の専門学校（以下専門学校）」は減少し続け，令和４年度についに逆転した．国立病院機構は附属看護学校において質の高い看護師を育成し看護師確保を行うという仕組みを確立してきたが，受験者数の減少などから附属看護学校は閉校が続いている．国立病院機構鹿児島医療センター（当院）の附属看護学校の受験者数も年々減少傾向がみられ，このままでは質の高い学生確保ができなくなることが懸念されていた．鹿児島県の看護師養成所は，大学２校，専門学校等26校と専門学校等が全体の約90％以上を占めている．そのため鹿児島県では県外の大学を受験し，そのまま就職するという人材流出が問題となっていた．このような状況のもと，当院は看護教育の質の向上と看護師確保を目的として，附属看護学校を閉校し大学誘致を行うことを選択した．【課題と対策】当院の看護師確保は附属看護学校が担っていたため，喫緊の課題は看護師確保対策である．先行研究によれば，実習病院での実習指導などによって得られた病院への好印象が就職先選択の一要因になることが報告されている．その一方で，医療系学生が受けた実習中の不当待遇（medical student abuse）は看護学科がトップであり，その対応の中にはハラスメントに該当する内容も含まれている．これまでは母体病院と附属看護学校という共同体としての信頼関係があったが閉校後は希薄になる．実習指導者が実習生の成長を願い実施した熱意ある指導が単なるハラスメントと受け取られるリスクも発生する．そのため看護師確保対策として，実習生にとってよい環境になるように整備することが重要となる．具体的には実習生の人権を尊重した指導を組織コンプライアンスとして意思決定することと，高い教育スキルを持った実習指導者の育成である．

キーワード　看護学校，大学誘致，課題

鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校　教員　†看護教員
著者連絡先：深野久美　国立病院機構鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校　副学校長
〒890-0005　鹿児島県鹿児島市下伊敷１丁目52番17号
e-mail：fukano.kumi.dk@mail.hosp.go.jp
（2024年３月14日受付　2024年６月14日受理）
Regarding the Closure of the Affiliated Nursing School at NHO Kagoshima Medical Center and Issues after Attracting Universities
Kumi Fukano　Kagoshima Nursing School Affiliated with Kagoshima Medical Center
（Received Mar. 14, 2024, Accepted Jun. 14, 2024）
Key Words：nursing school, attracting universities, assignment